

大東文化大学

学部・研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

目次

1. 文学部	1
2. 経済学部	2
3. 外国語学部	3
4. 法学部	4
5. 国際関係学部	6
6. 経営学部	7
7. スポーツ・健康科学部	8
8. 社会学部	12
9. 文学研究科	13
10. 経済学研究科	19
11. 法学研究科	20
12. 外国語研究科	22
13. アジア地域研究科	24
14. 経営学研究科	25
15. スポーツ・健康科学研究科	27

文学部の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

文学部は、日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化の六学科から成る学部である。文学部の教育研究上の目的は、人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やありかたを考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することである。この目的達成のため、文学部教員には以下のことが求められる。

求める教員像

1. 文学部の教育研究上の目的を理解し、その実現のために努力する。
2. 文学部六学科(日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化学科)各々の専門的職業人としての高度な知識と深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
3. 多様な個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重・理解し、その知的・人格的な成長を促す。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の検証と改善に努める。
5. 高い倫理観を持ち、教育研究・大学運営・社会的連携に、積極的に参加・尽力する。

教員組織の編制方針

変化流動する今日の世界と日本にあって、現代的課題に配慮しつつ、文学部の教育研究上の目的実現のため、文学部六学科(日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化学科)では、教員組織の編制方針を次のような方針である。

1. 専門分野・教員配置

各学科のカリキュラムとの整合性を重視し、各専門分野において優秀な研究業績をもち、学科学生の指導に熱意をもつ教員を配置している。

2. 教員構成

各学科の教育研究を円滑におこなうため専門分野のバランスに配慮し、年齢や性別の構成比に配慮している。カリキュラムに対応した専門領域の教員を配置し、同時に教員集団として全体として学生集団に指導・対応している。

3. 教員の役割分担

カリキュラムに対応した専門領域の教員を配置しその指導にあたる。同時に教員集団として全体として学生集団に指導・対応している。

4. 教員人事

学科ごとに人事に関する規則を細部にまで制定し、人事政策の下で厳密な方法で人事を行い、優秀な研究業績をもち、教育に熱意をもつ教員を採用している。

5. 教員の資質向上

まずは研究者として不断に研究活動を展開し、研究業績は毎年公開している。また、教員として指導技術を向上させるため学部・学科別にFD活動を展開している。

以上

経済学部を求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

経済学部は、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学・経済学史・経済史・国際経済・金融・財政・社会保障・経済地理等の分野にかかる講義科目を置き、実社会で通用する実践力があり、グローバルゼーションにも対応できる力を持つ者の育成を目的としている。この目的を実践するために、教員には下記のこと求められる。

求める教員像

1. 学部の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. 経済学にかかる各分野について深い知識を有し、かつ領域横断的なテーマにも関心を持っている。
3. 優れた専門性と知的誠実さ、情熱をもって教育に専心する。
4. 自己の研究を深めるとともに、講義等にかかる教育力の不断の検証と改善に努める。
5. 学部の運営に積極的に参画する。

教員組織の編成方針

1. 専攻分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績を持つ教員を確保する。その際、教員の専門性が特定分野に偏らないように努める。

2. 教員構成

教育研究・学部運営における適切な教員の役割分担を可能にするため、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く、国内外に人材を求める。

3. 教育課程や学部運営における教員の役割分担

専任教員等が構成員となっている教授会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。また、学部の運営を円滑に行うために、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保する。

4. 教員人事

教員の基準・任用・昇任等は、大学・学部の諸規則及び方針に基づき、学部の教育目的実現のために真に必要とされる人材を確保するため、透明性を担保し、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

教員の資質向上のための取り組みとしては、教員個人の不断の努力とともに、「大東文化大学FD・SD基本方針」に基づき、組織的にFD・SD活動を行う。

以上

外国語学部の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

外国語学部は、中国語学科、英語学科、日本語学科を持ち、各学科の専攻言語について専門研究を行い、わが国と世界の学問の発展と諸問題の解決に貢献できる国際的な視野に立った専門的職業人の育成を目的としている。この目的を実現するために、教員には下記のことが求められる。

求める教員像

1. 大東文化大学および外国語学部の理念と目的を十分に理解し、その実現のために尽力する。
2. 人格・識見においてすぐれ、各学科の専攻言語についての深い学識を有し、かつ学際的なテーマにも関心を持っている。
3. 優れた専門性と知的誠実さ、情熱をもって学生の教育研究を適切に支援、指導できる。
4. 自己の研究を深めるとともに、講義と学生指導にかかわる教育力の不断の検証と改善に努める。
5. 大学の校務と学部・学科の運営に主体的に参加し責任を分担する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

外国語学部は、人格・識見においてすぐれ、各学科の専攻言語についての深い学識を有し、かつ学際的なテーマにも関心を持つ教員を確保する。

2. 教員構成

学部・学科の理念と目的が実現できるよう、また学生の教育研究上の要請に適切に応えるために、教員の専門性、年齢構成、性別、国籍等のバランスを考慮する。

3. 教育課程や学部運営における教員の役割分担

学部教授会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、各学科および各教員は授業における専任教員と非常勤講師の連携が密になるよう努める。また、学部学科の運営を円滑に行うために、各教員の公平性を担保し、適切に役割を分担する。

4. 教員人事

教員の採用、昇任等は、学園規則に定められた教員選考基準および学部の教員人事に関する内規に従って行う。

5. 教員の資質向上

教育職員および事務職員間の協働能力、学生に対する研究指導能力に重点をおいて、FD活動・SD活動などにより教員の資質向上を図る。

以上

法学部の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

法学部は、法律学科と政治学科にて構成されている。

法学部の教員には、法学および政治学ならびにそれぞれの関連領域に関する専門的知識を教授することにより、広い視野に立ち、論理的に物事を考え、正しい判断ができる、バランス感覚に満ちた人材を育成すること、および法学と政治学ならびにそれぞれの関連領域の各分野において創造的で水準の高い研究成果を継続的に世に問うていく目的を達成することが求められる。これらの目的達成のため、法学部教員には以下の教員像、ならびに教員組織の編成方針が求められる。

求める教員像

1. 本学部の教育研究上の理念と目的を理解し、高度に専門的な研究および工夫に満ちた教育の実現のために尽力する。また、地域社会に対し常に関心を持ち貢献する。
2. 職務遂行において、人種、性別、国籍等に基づく差別的取扱いをしないよう、高い倫理意識を持ち、公平、公正な立場を貫く。
3. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格、信条を尊重し、学生の知的かつ人格的な成長を促す教育に専心する。
4. FD 活動や教材研究などに積極的に関わり、教育方法の改善のための不断の努力を怠らない。
5. 専門分野に関する深い学識を持ち、独創的な研究を通して自己の学識の向上に努める。
6. 研究活動において国際的視点を持ち、国際交流に参画する。
7. 高い研究倫理意識を持ち、「大東文化大学学術研究行動憲章」「大東文化大学研究者の行動規範」等を遵守し、学問的良心に従って自律的に研究を遂行する。
8. 大学および学部・学科の運営に積極的に参画し、協力する。
9. 自己の研究成果を社会に還元し、社会貢献に努める。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

法学部は、カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において深い学識を備え、教育に対して熱意を有する教員を任用ならびに配置する。

2. 教員構成

法学部は、教育研究ならびに大学運営における適切な教員の役割分担を可能にするために、国内外に国籍を問わず広く人材を求める。同じ理由により、年齢ならびにジェンダー構成が偏ることがないように配慮する。

3. 教育課程、学部学科運営における教員の役割分担

教授会は、学部運営を円滑に行うため各教員の公平性を確保し、適切に役割分担を行う。また、教育課程ならびに研究活動に対して責任を持ち、専任、特任、助教、非常勤を問わず、教員間の連携が密になるように努める。

4. 教員人事

教員の募集、採用、昇任等は、大学ならびに学部の諸規則及び方針に基づいて、厳正かつ公正な

手続を踏む。新規採用に当たっては、一般公募を原則とし、教授会の下に設置する選考委員会の厳正な選考手続きにより、年齢構成、ジェンダー、国籍等に配慮しつつ進める。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各自の教育研究能力を高めるために、積極的に組織的FDならびにSD活動に取り組む。

以上

国際関係学部の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

国際関係学部は、国際関係学科と国際文化学科の二学科からなる学部である。本学部は、アジア地域を中心に政治・経済・社会の問題を考え、また豊かな伝統と多様性に富む、その歴史・文化・芸術を学ぶことを通じて、異文化を理解する心を育てるとともに、アジアの地域言語および英語の運用能力を身につけ、グローバル社会の一員として国際協力や国際交流に貢献できる人材の育成を目的としている。この目的を実現するために、教員には下記のことが求められる。

求める教員像

1. 本学部の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. アジア地域研究にかかわる各分野について深い学識を有し、地域横断的なテーマにも関心をもつ。
3. 国際社会の変動に伴う時代的・社会的要請に柔軟に対応し、協働して学生の指導に当たる。
4. さまざまな個性をもつ学生の人格を尊重し、学生の自立的な学習や人格的な成長をサポートできる。
5. 自己の研究を深めるとともに、学生指導における教育力を不断に検証し、改善する。
6. 大学と学部の運営に、積極的に参画する。

教員組織の編成方針

1. 専門分野、教員配置

多様性・流動性に富むアジア地域に関する教育・研究を学際的に進めるため、学問領域や地域的な専門性に偏りのない教員配置を図る。アジア地域研究を主たるテーマとして、国際関係学科は社会科学一般、国際文化学科は人文科学一般にかかわる幅広い知見と、各自の専門分野における深い学識を備えた教員を確保する。

2. 教員構成

教育研究・大学運営における適切な教員の役割分担を可能とするために、国内外に人材を求める。さらに、同じ理由により年齢・性別構成が偏ることがないように配慮する。

3. 教育課程や学部運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている教授会が、教育課程・研究活動に対して責任をもつ。各教員は、授業における専任教員と非常勤講師の連携が密になるよう努める。また、学部学科の運営を円滑に行うために、各教員の公平性を担保し、適切に役割を分担する。

4. 教員人事

教員の募集、任用、昇任等は、大学・学部の諸規則および方針に基づいて、また学科ごとの任用・昇任基準に従って、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

教職員同僚との協働能力、学生と積極的にかかわる能力、学生に対する研究指導能力に重点をおいて、教員の資質向上を図る。さらに、FD・SD活動などを通して、これらの能力・資質を向上させる。

以上

経営学部の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

本学部は、経営、マーケティング、会計、知識情報などの分野で、理論的研究、実証的研究、およびフィールド研究において優れた業績を有し、かつ変化する社会や学生のニーズに適切に対応しつつ専門教育を提供できる教員の獲得を目指している。この目的を達成するために、本学部で求める教員像は以下の通りである。

求める教員像

1. 本学部の教育研究上の目的を理解し、その目的に沿って研究教育活動を実践する。
2. それぞれの専門分野における研究の動向を見定め、自己の研究テーマの選択に反映させ、研究を継続的に発展させる。研究成果については、国内外での発表などを通じ、社会に還元する。
3. 学生指導に当たっては、誠意を持って指導する。
4. 専門分野における研究と教育のバランスをとりつつ、自己研鑽を常に心がける。
5. 本学部の運営に前向きに貢献する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

経営学科は経営学全般、経営、会計、マーケティング、知識情報に対する幅広い知見と各専門分野における深い学識を備えた教員を確保する。

2. 教員構成

教育研究・大学運営における適切な教員の役割分担を可能にするために、国内外に人材を求める。さらに、同じ理由により、年齢・性別構成が偏ることがないように配慮する。

3. 教育課程や学部学科(研究科専攻)運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている教授会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、各教員は授業における専任教員と非常勤講師の連携が密になるように努める。また、学部学科の運営を円滑に行うために、各教員の公平性を担保し、適切に役割を分担する。

4. 教員人事

教員の募集、任用、昇任等は、大学・学部の諸規則及び方針に基づいて、また学科ごとの任用・昇任基準に従って、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

教職員同僚との協働能力、学生と積極的に関わる能力、学生に対する研究指導能力に重点をおいて教員の資質向上を図る。さらにFD・SD活動などを通してこれらの能力・資質を向上させる。

以上

《スポーツ・健康科学部》

基本方針

大学および学部・学科の理念と目的を十分に理解し、熱意と創意あふれる教育と独創的な研究を行う教員を求める。また、教育研究だけでなく、大学と学部・学科の運営に積極的に参加することが求められる。

教員組織は、年齢、性別、国籍、研究分野、スポーツや医療に関する専門領域などを考慮しつつ、学部・学科の理念と目的を実現する教員構成となるよう編制に努める。教員組織の編制は、学園規則に定められた教員選考基準および学部の教員人事に関する内規に従って行う。

各学科の求める教員像と編制方針は以下の通りである。

＜スポーツ科学科＞

求める教員像

1. 本学科の教育研究上の理念や目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. スポーツ科学全般に対する幅広い知見と専門分野における深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学と学部・学科の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育、研究、大学運営に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

本学科は、トップアスリート・スポーツ指導者の育成、スポーツ文化の普及や振興等々を社会的使命として捉えている。このような使命や本学科に課せられた今日的課題を踏まえ、教育研究上の目的を実現するためスポーツ科学全般に対する幅広い知見と専門分野における深い学識を備えた教員を確保する。

2. 教員構成

教育研究・大学運営における適切な教員の役割分担を可能にするために、国内外に人材を求める。さらに、同じ理由により、教員の専門性・研究分野・年齢・性別の構成が偏ることのないように配慮する。

3. 教育課程や学部運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている教授会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、各教員は授業における専任教員と非常勤講師の連携が密になるよう努める。また、学部学科の運営を円滑に進めるために、各教員の公平性を担保し、適切に役割を分担する。

4. 教員人事

教員の募集、任用、昇任等は、大学・学部の諸規則及び方針に基づいて、また学科ごとの任用・昇任基準に従って、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

教職員同僚との協働能力、学生と積極的に関わる能力、学生に対する研究指導能力に重点をおいて教員の資質向上を図る。さらに、FD・SD活動などを通してこれらの能力・資質を向上させる。

<健康科学科>

健康科学科の教員は、建学の精神及び大学の教育理念・目的を十分に理解するとともに、「生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療・保健・理科教育の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材育成」、「健康を科学する、医療・食品・環境・理科教育のスペシャリスト育成」への強い使命感と倫理観を備え、自らも卓越した研究姿勢を貫き、地域社会・国際社会における健康の実現に寄与し、学生の学修意欲を常に喚起し入学目的の実現に向けて誠実な支援を継続できる資質を有する教員であることが求められる。

また、このように学問的能力と豊かな人間性を備えた教員の採用を担保するために、内規で教員選考基準を定め、公募制により厳正に採用に臨んでいる。

求める教員像

1. 健康科学科の教育理念と目的を理解し、高い倫理観と使命感をもって教育研究に専心する。
2. 健康科学科の教育目的を理解し、その達成のために真摯に努力する。
3. 個々の学生の人格を尊重し、その信頼に応えるとともに、個別対応等により、学生の自発的な学習を促し積極的な学習支援を行う。
4. 教育力を向上させるために、FD（ファカルティ・ディベロップメント）等を通して、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 研究倫理規則等を遵守しつつ、自己の専門分野を究め、学問の発展に貢献する。
6. 自己の専門的な学識と経験をもって社会貢献・国際貢献に積極的に参加する。

教員組織の編制方針

1. 専攻分野、教員配置

健康科学科は、医療・保健・健康・食品・環境・理科教育を含む健康科学全般に対する幅広い知見と各専門分野における深い学識を備えた教員を確保する。

2. 教員構成

健康科学科の教育研究上の目的を達成するために、学生/教員比率（S T比）、教員の年齢構成、教員の男女比率等に配慮しつつ、適切な教員組織の編制に努める。

3. 教育課程や学科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている学科協議会が教育課程・研究活動に対して責任を持つことはもとより、学科運営を円滑に漏れなく行うために、学科分掌の役割を明確にしたうえで、各分掌間の連携に努める。また、各教員の役割分担に際しては、公平性を第一に考え、専任教員と非常勤講師の隔たりが生じないように配慮する。

4. 教員人事

健康科学科の教員募集・採用・昇格に関する内規に沿って、公平性と透明性に則った適切な人事を行

う。なお、臨床検査技師をはじめ、各コースにおける資格取得に必要な実技（実習・演習）と理論のバランスを鑑みて、計画的な人事計画を策定する。

5. 教員の資質向上

教員の資質向上、ならびに教育研究能力の涵養に資するために、積極的にFD・SD活動に取り組む。

<看護学科>

看護学科で求める教員像は、本学科の教育目的である「住み慣れた地域社会における生活者の健康回復・維持・増進において創造的に活躍するための看護実践能力を発揮できる人材の育成」に向けて、それぞれ専門領域に応じた看護実践と教育経験を有する人材を厳正に採用する。

求める教員像

1. 建学の精神および理念、看護学科の教育目的を理解し、その達成のために真摯に努力する。
2. 看護学科の教育理念と目的を理解し、高い生命倫理観と使命感をもって教育・研究に専心する。
3. さまざまな個性と背景をもつ学生の人格を尊重し、学生の思考力・判断力・表現力および人格的な成長を促し、学生の自発的な学修を積極的に支援する。
4. 教育力を向上させるために、FD（ファカルティ・ディベロップメント）等を通して、授業内容・方法に関して不断の検証と改善に努める。
5. 研究倫理規則等を遵守し、自己の専門分野を究め、学問の発展に貢献する。
6. 大学と学部・学科の運営に責任を持って積極的に参加する。
7. 保健・医療・福祉に関する地域社会のニーズをふまえ専門的な学識および技能をもって積極的に社会貢献・国際貢献に参加する。

教員組織の編制方針

1. 専攻分野、教員配置

本学科の教育目的である「住み慣れた地域社会における生活者の健康回復・維持・増進において創造的に活躍するための看護実践能力を発揮できる人材の育成」に向けて、保健・医療・福祉分野における豊富な実践と教育経験を有する教員を確保する。専門領域は、保健医療基礎及び看護学の7領域（基礎看護学、成人看護学、公衆衛生・在宅・地域看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学）で構成し、各専門領域は目的達成のために協働する。

2. 教員構成

教育・研究、学部および学科の円滑な運営のために、各領域にはリーダーシップと役割遂行を実行できる人材、ならびに年齢、性別に著しい偏りがないように教員編制を行う。

3. 教育課程や学科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている学科協議会が教育課程・研究活動に対する責任を担う。学科運営を適正かつ円滑に行うために、各専門領域や委員会などに教員を適切に配置し、役割分担を行う。

専門領域の授業科目は原則、領域内専任教員が担当し、概論は教授または准教授、技術論や方法論は主に准教授・講師が中心となり、助教を含めて分担・共同し担当する。実習においては、教育内容の質を担保するために教授または准教授が統括し、学生に対する教育・指導は准教授、講師、助教が行い、助手は指導補助の役割を担う。

4. 教員人事

大学・学部および看護学科の専任教員募集・採用・昇格に関する諸規定等に沿い、公正かつ適切な人事選考を行い、助手の採用基準は、臨床経験を2年以上有し、学士の学位取得または、取得見込みとしている。なお、教育課程の進捗状況などを考慮しつつ計画的な人事計画を策定する。

5. 教員の資質向上

教員の資質向上、ならびに教育研究能力の涵養に資するために、積極的に学部・学科のFD活動に取り組む。

以上

社会学部の求める教員像・教員組織の編成方針

基本方針

本学部は、社会学科の一学科で構成される。多文化・共生、都市・地域、情報・メディアにかかる講義科目を置く。教員には、これらの分野で理論的研究、実証的研究、およびフィールド研究において優れた業績を有し、現代社会が直面する諸問題に多様な観点からアプローチできる高度な専門性を有することを求める。かつ、学生のニーズに適切に対応できる教員を求める。この目的を達成するために、求める教員像は以下の通りである。

求める教員像

1. 本学部の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、誠意をもって学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. それぞれの専門分野における自己の研究を深め、研究を継続的に発展させる。
4. FD活動などに積極的に参加し、授業内容・方法、学生指導の不断の検証と改善に努める。
5. 大学の理念を理解し、大学と学部の運営に積極的に参加する。
6. 国内外での発表などを通じ研究成果を社会に還元し、専門知識と実践力を活かし地域社会の発展や多文化共生社会に貢献する。

教員組織の編成方針

社会における今日的な課題に目配りしつつ、社会学部における教育研究上の目的を達成すること、及び社会的評価向上に資することの目的実現に向け、以下のような教員組織の編成方針である。

1. 専門分野、教員配置

各専門分野において高度な専門知識と優れた研究業績を有し、誠実かつ熱意をもって学生指導をおこなう教員を配置する。

2. 教員構成

教員の専門性、年齢構成、性別、国籍などを勘案した構成となるよう配置する。教育研究を円滑におこない、学部運営における適切な役割分担を可能にするために、専門分野のバランスに配慮する。

3. 教員の役割分担

専任教員によって構成される教授会が、教育、研究活動に対して責任を持ち、各教員は事務職員や非常勤講師との連携を円滑かつ密にするよう努める。また、大学・学科の運営が円滑に進むよう、各教員の公平性を担保し、適切に役割を分担する。

4. 教員人事

募集、任用、昇格等は、学園・大学の諸規則、学部の内規、細則、申し合わせ事項に基づき公正かつ適切に行う。高度な専門性、教育への熱意をもつ教員を採用する。

5. 教員の資質向上

教職員同僚との相互理解を深め、学生の教育、指導および対応に誠実かつ積極的にかかわることのできる能力に重点をおき、教員の資質・能力の向上に努める。そのため、組織的かつ積極的にFD・SD活動に取り組む。

以上

文学研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

文学研究科は、大学院および文学研究科、研究科内の各専攻の理念と目的を十分に理解し、熱意と創意あふれる教育と独創的な研究を行うと同時に、大学院および文学研究科、各専攻の運営に積極的に参加する教員を求める。

教員組織の編制は、学園規則に定められた教員選考基準および文学研究科、各専攻の教員人事に関する内規に従って行うが、年齢、性別、国籍、分野などを考慮しつつ適正な教員の配置を行い、文学研究科および各専攻の理念と目的を実現する教員組織となるよう努める。

なお、文学研究科の各専攻の求める教員像と教員組織の編制方針は以下の通りである。

＜日本文学専攻＞

求める教員像

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 日本文学に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、古典および近現代文学を主とした様々な文学について深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
4. 日本語学に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、古代から現代に至る日本語の的確な使用について深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
5. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
6. 大学院および文学研究科、日本文学専攻の運営に積極的に参加する。
7. 高度な専門的知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
8. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を任用・配置する。その際、多用に変容しつつある日本の社会・文化・文学において、本専攻の教育研究上の目的を実現するために、教育研究上の要請と今日的な課題に目配りしつつ、古代から現代に至る日本文学と日本語学の幅広い分野をカバーできるよう各々のバランスに配慮する。

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した特任教授・非常勤講師を任用・配置する。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（博士論文・修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の資格審査については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD活動に取り組む。

<中国学専攻>

求める教員像

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 中国思想・史学・文学に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、古典や現代語に十分な理解力を有し、独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学院および文学研究科、中国学専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を任用・配置する。その際、中国古典と現代社会との関連を、さまざまな文化事象の研究を通して総合的に理解しようとする本専攻にあっては、学生の多様な関心のあり方に留意しつつ、適切な教育を遂行するために、思想・史学・文学の三分野にまたがって幅広く専門分野をカバーできるよう各々のバランスに配慮する。

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した特任教授・非常勤講師を任用・配置する。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（博士論文・修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の資格審査については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD活動に取り組む。

<英文学専攻>

求める教員像

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. 多様な個性とバックグラウンド、またそれぞれ異なる勉学動機や研究目的を持つ学生の意向を尊重し、一人ひとりの将来に向けて知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 英米を中心とする英語圏の文学、言語、文化、歴史、社会事情について深い学識を持ち、かつ発信力を伴った独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動や、共同研究活動等に積極的に参加し、各専攻相互間の交流を深め情報を交換しながら、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学院および文学研究科、英文学専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識をもって社会と連携し、多方面で寄与できるように努力する。
7. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に真摯に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を任用・配置する。また、英語圏の文学、言語、文化、歴史、社会を研究するに際し、多様性を念頭に入れた研究姿勢が強く求められている。その研究姿勢を学生とともに実践していくために、従来 of 伝統的な研究学問の蓄積を尊重しつつ、今日的な課題にも十分対応していく柔軟な発想を培っていく必要がある。

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した特任教授・非常勤講師を任用・配置する。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれ

の専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の資格審査については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD活動に取り組む。

<書道学専攻>

求める教員像

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 日本や中国の書学あるいは書制作について深い学識を持ち、独創的な研究や制作を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学院および文学研究科、書道学専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を任用・配置する。その際、本専攻の教育研究上の目的を実現するために、教育研究上の要請と今日的な課題に目配りしつつ、多様な書学や書作、書跡文化財学の諸分野をカバーできるよう配慮する。

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した特任教授・非常勤講師を任用・配置する。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（博士論文・修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の資格審査については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD活動に取り組む。

<教育学専攻>

求める教員像

1. 本専攻の教育研究上の目的を十分に自覚し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな興味と関心を持つ学生の知的好奇心を一層深め、そのことを通して学生の人格的な成長を促す教育と指導にあたる。
3. 教育学、心理学についての深い学識を基礎に、独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学院および文学研究科、教育学専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識と技術を基礎に、社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育研究に望み、大学運営に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を任用・配置する。その際、多様性に富み、常に変化している現実の教育現場の要請に対応し、幅広い分野をカバーできる構成となるよう考慮する。

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した特任教授・非常勤講師を任用・配置する。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の資格審査については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD活動に取り組む。

以上

経済学研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

本研究科は、経済理論および経済諸現象を理解するための高度な教育研究を行い、広く豊かな学識と高い研究能力、思考力、表現力などを有し、専攻分野における教育研究活動その他の高度な専門性を必要とする業務を遂行できる人材の養成を目的とする。この目的を実現するために、教員には下記のことが求められる。

求める教員像

1. 本研究科の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. 専門分野について深い学識を有している。
3. 優れた専門性と知的誠実さ、情熱をもって学生の研究を適切に支援、指導できる。
4. 自己の研究を深めるとともに、講義と学生指導にかかわる教育力の不断の検証と改善に努める。
5. 大学院研究科の運営に積極的に参画する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を任用・配置する。学生の研究上の要請に適切に応えるために、教員の専門性が特定の専門分野に偏らないよう、バランスのとれた編制に努める。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（博士論文・修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の募集、採用、昇格については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD・SD活動に取り組む。

以上

法学研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

本研究科は、博士課程前期課程並びに博士課程後期課程ともに法律学専攻と政治学専攻で構成され、各分野について専門研究を行い、法律学、政治学それぞれの分野で、多文化の共生に積極的に貢献できる研究者と高度な専門知識を要する専門職業人の育成を目的としている。

この目的を実現する為に求められる法学研究科の教員組織の編制方針ならびに、法学研究科各専攻の求める教員像については以下の通りである。

求める教員像

〈法律学専攻〉

1. 法学研究科および法律学専攻のディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの趣旨を理解し、その実現に向けて尽力するとともに、大学院と専攻の運営に積極的に参加する。
2. 学部教育の基礎を踏まえて、学生の持つ能力を高めるとともに、さらなる専門性と応用力を身につけさせることに力を注ぐ。
3. 大学院の講義・演習科目を担当することを自覚し、法律学について高度な専門性および独自性を有する研究の成果を積極的に公表する。
4. 日本の法制度はもとより、国際的な観点から、諸外国の法制度についても深い専門知識を持ち、法律学の教育・研究に取り組む。
5. 職務遂行において、人種、性別、国籍等に基づく差別をせず、高い倫理意識を持ち、公平、公正な立場を貫く。
6. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ院生の人格を尊重し、院生の知的かつ人格的な成長を促す教育に専心する。
7. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
8. 高い研究倫理意識を持ち、「大東文化大学学術研究行動憲章」、「大東文化大学研究倫理指針」等を遵守し、学問的良心に従って自律的に研究を遂行する。
9. 深い高度な専門的知識を活用して、社会連携・社会貢献に積極的に参画する。

〈政治学専攻〉

1. 法学研究科および政治学専攻のディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの趣旨を尊重し、その実現に向けて尽力するとともに、大学院と専攻の運営に積極的に参加する。
2. 学部教育の基礎を踏まえて、学生の持つ能力を高めるとともに、さらなる専門性と応用力、アカデミック・スキルを身につけさせることに力を注ぐ。
3. 大学院の講義・演習科目を担当することを自覚し、政治学および隣接学問について真に独創的な研究を行い、その成果を積極的に公表する。

4. 日本や諸外国の政治について深い専門知識を有するとともに、国内外において幅広い交流につとめる。
5. 職務遂行において、人種、性別、国籍等に基づく差別をせず、高い倫理意識を持ち、公平、公正な立場を貫く。
6. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ院生の人格を尊重し、院生の知的かつ人格的な成長を促す教育に専心する。
7. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
8. 高い研究倫理意識を持ち、「大東文化大学学術研究行動憲章」、「大東文化大学研究倫理指針」等を遵守し、学問的良心に従って自律的に研究を遂行する。
9. 深い専門知識を活用して、社会連携・社会貢献に積極的に参画する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

法律学・政治学の各専門分野における優れた学識と研究業績を有し、大学院教育に対して熱意を有した専任教員を配置する。

2. 教員構成

教育研究活動や研究科運営を円滑に行うため、専門分野のバランスに配慮しつつ、広く国内外に人材を求める。また教員の年齢・性別の構成についても、偏りがないよう配慮する。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となる研究科委員会が教育・研究活動に対して責任をもつ。専任教員はそれぞれの専門分野での研究業績にもとづいて担当科目の教育を行うとともに、大学院生の研究および修士論文・博士論文の執筆のために相互に連携して、必要な研究指導を行う。また専任教員は研究科運営のために必要な職務を分担する。

4. 教員人事

大学院専攻科目担当者の選考については、「大学院学則」ならびに「大学院法学研究科専攻科目担当基準および専攻科目担当者選考手続きに関する内規」および「大学院法学研究科非常勤講師の専攻科目担当選考手続きに関する特例」に基づき、厳正に判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質および教育研究能力の向上を目的として、組織的にFD活動を行う。

以上

外国語学研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

本研究科は、大東文化大学大学院学則(第 3 条 2 項)に定められた教育研究上の目的を達成するために、「学校法人大東文化学園職員任免規則(第 13 条第 1 項)」、「教員選考基準」、「大東文化大学外国語学部教員選考規定及び内規」によって採用された教員に対し大学院設置基準(第 3 章第 9 条)に沿って「外国語学研究科担当教員選考規定」を定め、審査委員会による審査と研究科委員会の議を経て、教育研究棟の成果をあげるのにふさわしい適正な教員の配置を行う。本研究科は中国言語文化学、英語学(英語教育学・言語文化学)、日本言語文化学(日本言語文化学・応用日本語学)の専攻を持ち、各分野について専門研究を行い、わが国と世界の学問の発展と諸問題の解決に貢献できる研究者と専門職業人の育成を目的としている。この目的を実現するために、教員には下記のことが求められる。

本研究科の求める教員像

1. 本研究科の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力することができる。
2. 各専攻分野について深い学識を有し、かつ領域横断的なテーマにも関心を持っている。
3. 優れた専門性と知的誠実さ、情熱をもって学生の研究を適切に支援、指導できる。
4. 自己の研究を深めるとともに、講義と学生指導にかかわる教育力の不断の検証と改善に努めることができる。
5. 大学院研究科の運営に積極的に参画することができる。

各専攻の求める教員像は以下の通りである。

〈中国言語文化学専攻〉

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 中国語圏の文学、文化、社会について深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学と研究科・専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に尽力する。

〈英語学専攻〉

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 英語・ドイツ語・フランス語圏の言語、文学、文化について深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。

5. 大学と研究科・専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に尽力する。

〈日本語圏文化学専攻〉

1. 本専攻の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. さまざまな個性とバックグラウンドを持つ学生の人格を尊重し、学生の知的また人格的な成長を促す教育に専心する。
3. 日本語圏の言語、文学、文化について深い学識を持ち、独創的な研究を行う。
4. 教育力を向上させるためのFD活動等に積極的に参加し、授業内容・方法の不断の検証と改善に努める。
5. 大学と研究科・専攻の運営に積極的に参加する。
6. 高度な専門的知識をもって社会連携・社会貢献に参画する。
7. 高い倫理観をもって教育研究、大学運営に尽力する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

大学院設置基準に基づくとともに、教育研究上の専門分野等のバランスを考慮しながら、本研究科の教育研究上の目的等を実現するために必要な教員を配置する。

2. 教員構成

学生/教員比率(S T比)、教員の年齢構成、教員の男女比率、外国人教員の比率、実務家教員の配置等に配慮しつつ、適正な教員配置と適切な教員組織を編制する。教員組織の適切性については、大学が毎年度実施する自己点検・評価で定期的に検証する。

3. 教育課程や研究科運営における役割分担

本研究科委員会は研究科の教育課程や運営において、責任を持ち、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究等に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編制する。各教員は授業に責任を持ち、また関係する非常勤講師との連携が密になるように努める。

4. 教員人事

教員の募集・採用は、学園・大学および外国語学部・外国語学研究科の諸規程および方針に基づき、透明性を担保し、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

教員の資質向上のための取り組みは、教員個人の不断の努力とともに、「大東文化大学FD・SD基本方針」に基づき本研究科のFD委員会において推進する。

以上

アジア地域研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

アジア地域研究科は、アジア諸地域の問題に関する理解と洞察力を深め、またアジア地域研究に関する深い学識を修めることで、国際的な広い視野に立脚し、高度な専門性と実践力、及び高度な研究能力・職業能力を有し、アジア地域研究の専門家としてグローバルに活躍できる人材の育成を目的としている。この目的を実現するために、教員には下記のことが求められる。

求める教員像

1. 本研究科の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. アジア地域研究にかかわる各分野について深い学識を有し、地域横断的なテーマにも関心をもつ。
3. 国際社会の変動に伴う時代的・社会的要請に柔軟に対応し、協働して学生の指導に当たる。
4. 学生の人格を尊重し、優れた専門性と知的誠実さ、情熱をもって学生の研究を適切に支援、指導できる。
5. 自己の研究を深めるとともに、学生指導における教育力を不断に検証し、改善する。
6. 大学院研究科の運営に積極的に参画する。

教員組織の編成方針

1. 専門分野、教員配置

多様性・流動性に富むアジア地域に関する教育・研究を学際的に進めるため、学問領域や地域的な専門性に偏りのない教員配置を図る。アジア地域研究を主たるテーマとして、社会科学や人文科学一般にかかわる幅広い知見と、各自の専門分野における深い学識を備えた教員を確保する。

2. 教員構成

教育研究・大学運営における適切な教員の役割分担を可能とするために、国内外に人材を求める。さらに、同じ理由により年齢・性別構成が偏ることがないように配慮する。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が、教育課程・研究活動に対して責任をもち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて担当科目を教授する。大学院生の学位論文（修士論文・博士論文）作成もしくは特定の課題や研究の遂行のために、教員が連携して必要な研究指導を行う。また、公正かつ適切な役割分担の下で研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の任用等については、研究科の教育目的実現のために必要とされる優れた人材を確保するため、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

教職員同僚との協働能力、学生と積極的にかかわる能力、学生に対する研究指導能力に重点をおいて、教員の資質向上を図る。さらに、FD・SD活動などを通して、これらの能力・資質を向上させる。

以上

経営学研究科の求める教員像・教員組織の編制方針

基本方針

経営学研究科は、経営学専攻のみから構成される研究科である。

本研究科の教育上の目的である現代社会の目まぐるしい環境の変化に対応できるような人材を育成するために、「経営学に関する精深な学識を修め、広い視野に立脚した研究能力および高度に専門的な職業能力を有する人材の育成を目的とする」（博士課程前期課程）および「前期課程における研究成果に基づき、より専門性を深め、自立した経営学研究者及び高度な専門業務従事者の養成を目的とする」（博士課程後期課程）に沿うべく、組織および科目を編制し、それに適合した教員構成の明確化を目指すと同時に、その要件を満たす能力を有する教育・研究陣を配し、その目的に適う体制を整えるよう努力を重ねている。この目的を実現するためには、具体的には教員に対して以下のことを求めることになる。

求める教員像

1. 本研究科の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. 各専攻分野について深い学識を有し、かつ領域横断的なテーマにも関心を持っている。
3. 優れた専門性と知的誠実さ、情熱をもって学生の研究を適切に支援、指導できる。
4. 自己の研究を深めるとともに、講義と学生指導にかかわる教育力の不断の検証と改善に努める。
5. 大学院研究科の運営に積極的に参画する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

教育カリキュラムとの整合性を重視し、それぞれの専門分野において優れた研究業績をもち、大学院教育に対して熱意を有する専任教員を任用・配置する。経営学、商学・マーケティング、知識・情報マネジメント、会計学という4つの専門分野の研究・教育を行うため、実務経験を持つ教員など、それぞれの分野で多様な専門性を持つ教員を配置する。

学生の研究上の要請に適切に応えるために、教員の専門性を基に、バランスのとれた編制に努める。

2. 教員構成

教育研究や研究科運営を円滑に行うために、専門分野のバランスに配慮するだけでなく、年齢や性別の構成についてもそれが偏ったものにならないように配慮する。また、広く国内外に人材を求める。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、それぞれの専門分野での研究業績及び実務経験に基づいて、担当科目の内容を教授する。大学院生の学位論文（博士論文・修士論文）若しくは特定課題研究の作成のために、担当教員が連携し、必要な研究指導を行う。その他、研究科運営のために必要な職務を遂行する。

4. 教員人事

教員の募集、採用、昇格については、研究科の教育目的実現のために真に必要とされる優れた人材を確保するため、厳正な審査に基づいて判断する。

5. 教員の資質向上

教員の資質を向上し、各々の教育研究能力を高めるために、組織的かつ積極的にFD・SD活動に取り組む。

以上

基本方針

本研究科は、スポーツ科学領域と応用スポーツ科学領域からなるスポーツ関連分野と、健康科学領域と健康情報科学領域からなる健康関連分野を配置し、分野横断的及び学際的な教育研究を行い、幅広い視野と高度な知識・技能をもった研究者および専門的職業人の育成を目的としている。この目的を実現させるために、教員には下記のことが求められる。

求める教員像

1. 本研究科の教育研究上の目的を理解し、その実現のために尽力する。
2. 各分野について深い学識を有し、かつ分野横断的な研究にも関心を持っている。
3. 優れた専門的知識を有し、誠実さと情熱をもって学生の研究を適切に支援、指導ができる。
4. 教員自らが関連領域の中で最先端の知識・技術を学ぼうとする姿勢で望み、より高度で専門的な研究を積み重ねるべく努力するとともに、講義と学生指導にかかわる教育力の不断の検証と改善に努める。
5. 研究科の運営に積極的に参加する。

教員組織の編制方針

1. 専門分野、教員配置

スポーツ・健康科学研究科は、スポーツ科学領域と応用スポーツ科学領域からなるスポーツ関連分野と、健康科学領域、健康情報科学領域、看護学領域からなる健康関連分野を配置し、各領域に対する幅広い知見と各専門分野における深い学識を備えた教員を確保する。

2. 教員構成

本研究科の教員は全員が学士課程（学部）に所属しており、研究科の教員採用人事は学部の人事計画と連携を取りながら進めることになるが、スポーツ科学分野ならびに健康科学分野は、それぞれ多岐にわたる学問領域から成り立っているため、教員の専門性が特定の専門分野に偏らないよう、広く国内外に人材をもとめつつ教員編制に努める。また、年齢や性別の構成についても配慮する。

3. 教育課程や研究科運営における教員の役割分担

専任教員が構成員となっている研究科委員会が教育課程・研究活動に対して責任を持ち、研究科運営のために必要な職務を遂行するよう努める。研究科の運営においては、各教員の公平性を担保し、適切に役割を分担する。

4. 教員人事

教員の募集、任用、昇任等は、大学の諸規則及び方針に基づいて、また本研究科の任用・昇任基準に従って、公正かつ適切に行う。

5. 教員の資質向上

各々の研究能力ならびに学生に対する研究指導能力に重点をおいて教員の資質向上を図るために、組織的かつ積極的にFD・SD活動に取り組む。

以上